

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

## セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

# デーヴォ ガイド



**2022.8.1-7**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

1:13 夕があり、朝があった。第三日。

光、大空と海、陸と植物を神が創造なさったと書いてあります。

光は万物で一番早いもので、その速度は高速移動するものから測定しても一定です。不思議ですが、実験で確かめられていることで、その場合空間や時間が伸び縮みするのです。20世紀になって初めて、天才アインシュタイン博士により、光が特別な宇宙の基本であることがわかったのですが、聖書では数千年も前から光が特別なものとして記されていました。

大空は人間の環境ではもっとも壮大なものです。光の創造の後を考えると、素粒子や物質、また宇宙空間や銀河系、また太陽系や地球などをも創造されたはずですが、聖書では人間を重視しますから、人間の環境に話題が行くのでしょう。地球はかつて全体が海であったことがわかりますが、化石などはそのことをよく表しています。

陸と植物も神が創造されたと書かれています。植物のような生命はほとんどが炭素化合物ですが、それは炭素原始の構造が複雑で大きな分子を作りやすいからです。ただし炭素化合物は高温で燃焼してしまいうので、地球の温度は宇宙の中では特別に保たれなければなりません。生命には水が必要ですから、温度が低すぎてもいけないのです。広い宇宙を見渡してもこの地球の環境ほど生命に適したものはありません。偶然とは考えられません。

そればかりでなく、複雑な高分子が無数に生成されたこと、それらがさらに複雑かつ有機的に結びついてらせんじょうのDNAになっていったこと、それが生命の情報として再生のために機能するようになったこと、さらに無数の段階を通り越えて様々な植物の形態に変化していったこと、それぞれが環境に適した機能を持っていることなど…これもまた偶然としてしまう方が非論理的と言わざるを得ません。

神様の創造は驚くべきものです。神の力の前にその主権を認めてひれ伏しましょう。神のことばの偉大さを心に留め、そのみことばを信じて生きましょう。またこの世界を神のものとして、謙遜

にそして大胆に生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 2日 火曜

### 創世記



1:14 神は仰せられた。「光る物が天の大空にあれ。昼と夜を分けよ。定められた時々のため、日と年のためのしるしとなれ。

1:15 また天の大空で光る物となり、地の上を照らすようになれ。」すると、そのようになつた。

1:16 神は二つの大きな光る物を造られた。大きいほうの光る物には昼を治めさせ、小さいほうの光る物には夜を治めさせた。また星も造られた。

1:17 神はそれらを天の大空に置き、地の上を照らせ、

1:18 また昼と夜を治めさせ、光と闇を分けるようにされた。神はそれを良しと見られた。

1:19 夕があり、朝があつた。第四日。

1:20 神は仰せられた。「水には生き物が群がれ。鳥は地の上、天の大空を飛べ。」

1:21 神は、海の巨獣と、水に群がりうごめくすべての生き物を種類ごとに、また翼のあるすべての鳥を種類ごとに創造された。神はそれを良しと見られた。

1:22 神はそれらを祝福して、「生めよ。増えよ。海の水に満ちよ。鳥は地の上に増えよ」と仰せられた。

1:23 夕があり、朝があつた。第五日。

太陽と月のことが書かれています。それらは当然、光合成が必要な植物よりも前に存在していたはずですが。「地上を照らせ」とありますから、何らかの地球環境の変化によって光が地表まで届くようになったのかもしれません。

その後の16節に「造られた」と書いてありますから、これは時間的な順番ではなく、ただその起源が神にあるということを表しているのです。

海の魚、鳥、そして哺乳類と水に棲む哺乳類、また両生類や爬虫類も創造されたことが示唆されます。イメージとしては単純なものから高等なものに移っているようですから、聖書は進化論を支持しているようにも感じます。仮に進化したとしても、それは神の計画と力なしには有り得ないことです。しかしながら、発見されている化石は進化過程のものがどの種類も見つかっていないので、進化はなかったと考える方が理にかなっています。

これほど多くの証拠がそろって、神の（または全能者の）創造を指し示しているのに、それでも多くの人々は根拠のない「偶然進化説」をうのみにしています。実は神を認めるといことは、理性の働きではなく霊的な機能によるのです。

神を知っていることを感謝しましょう。また神を知っていただくためには、（論拠も助けにはありませんが）祈って神の力に頼りましょう。神の造られた自然界を大切にしていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 3日 水曜

### 創世記

1:24 神は仰せられた。「地は生き物を種類ごとに、家畜や、這うもの、地の獣を種類ごとに生じよ。」すると、そのようになった。

1:25 神は、地の獣を種類ごとに、家畜を種類ごとに、地面を這うすべてのものを種類ごとに造られた。神はそれを良しと見られた。

1:26 神は仰せられた。「さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。こうして彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう。」

1:27 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。

1:28 神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」

1:29 神は仰せられた。「見よ。わたしは、地の全面にある、種のできるすべての草と、種の入った実のあるすべての木を、今あなたがたに与える。あなたがたにとってそれは食物となる。

1:30 また、生きるいのちのある、地のすべての獣、空のすべての鳥、地の上を這うすべてのもののために、すべての緑の草を食物として与える。」すると、そのようになった。

1:31 神はご自分が造ったすべてのものを見られた。見よ、それは非常に良かった。夕があり、朝があった。第六日。

新改訳 2017 サブ聖書ウインドウ No.1

創

2:1 こうして天と地とその万象が完成した。



2:2 神は第七日に、なさっていたわざを完成し、第七日に、なさっていたすべてのわざをやめられた。

2:3 神は第七日を祝福し、この日を聖なるものとされた。その日に神が、なさっていたすべての創造のわざをやめられたからである。

人は「われわれ」すなわち三位一体の神の「かたち」に造られたとあります。それは愛の交わりをすることのできる、共同体に生きるものとして人間は造られているということです。セルや教会もまた家庭や地域や職場などの交わりを大切にしましょう。

また「神のかたち」は男と女であるとあります。異性は理解し合うのがむずかしいものですが、決定的な違いを乗り越えて、相手を受け入れることが創造の意味になっているのです。

さらに「支配せよ」とありますが、これはあくまでもすべては神によって造られた神のものであるという大前提があつてのことです。そうでないなら人間の勝手になってしまい、環境破壊や種の絶滅、さらには資源の枯渇や争奪戦などがおきるのです。すべてを主のものとして、主の仕え人となって正しく管理しましょう。それは個人の生活でも言えることです。

すべては「非常によかった」ので神は創造のわざを休まれました。万物は本来よいものなのです。不平や不満、また批判をする前に、まず環境や人生を肯定的にとらえて感謝することから始めましょう。

それは神さまをたたえることにつながります。そしてそれが聖日の礼拝の基本姿勢です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 4日 木曜

### 創世記

2:4 これは、天と地が創造されたときの経緯である。神である【主】が、地と天を造られたときのこと。

2:5 地にはまだ、野の灌木もなく、野の草も生えていなかった。神である【主】が、地の上に雨を降らせていなかったからである。また、大地を耕す人もまだいなかった。

2:6 ただ、豊かな水が地から湧き上がり、大地の全面を潤していた。

2:7 神である【主】は、その大地のちりて人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。それで人は生きるものとなった。

2:8 神である【主】は東の方のエデンに園を設け、そこにご自分が形造った人を置かれた。

2:9 神である【主】は、その土地に、見るからに好ましく、食べるのに良いすべての木を、そして、園の中央にいのちの木を、また善悪の知識の木を生えさせた。

2:10 一つの川がエデンから湧き出て、園を潤していた。それは園から分かれて、四つの源流となっていた。

2:11 第一のものの名はピション。それはハビラの全土を巡って流れていた。そこには金があった。

2:12 その地の金は良質で、そこにはベドラハとシヨハム石もあった。

2:13 第二の川の名はギホン。それはクシュの全土を巡って流れていた。

2:14 第三の川の名はティグリス。それはアッシュルの東を流れていた。第四の川、それはユーフラテスである。

2:15 神である【主】は人を連れて来て、エデンの園に置き、そこを耕させ、また守らせた。



2:16 神である【主】は人に命じられた。  
「あなたは園のどの木からでも思いのまま食べてよい。

2:17 しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」

ここからは人とその罪について聖書が語ります。まず「灌木もなく」とありますが、これは善悪の知識の木を神が生じさせたとわかるためです。また人は土地のちりと息で造られたとありますが、つまり人は物質的な存在であると同時に霊的な存在であることを意味します。目に見えるモノ（物質）ばかりこだわらずに、霊すなわち神との関係にもこだわって生きましょう。

川の名前やその産物から神さまがどれほど人々を祝福しておられるかがわかります。善悪は神様が決めることですから、神様に信頼しましょう。また聖書は神のことばですから、人間が自説を論じる前に聖書を調べて学びましょう。

「あなたは必ず死ぬ」とあるように、人が神の善悪に聞かないで自分勝手に善悪を決めるところから、自己中心の罪が入ってしまい、その結果として滅びる（すなわち死ぬ）ようになったのです。ですから、私たちも聖書に聞かないで、勝手に判断することはいのちが生まれ出されない行為なのです。聖書に聞きましょう。そして神の判断を仰ぎましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 5日 金曜

### 創世記



2:18 また、神である【主】は言われた。「人がひとりているのは良くない。わたしは人のために、ふさわしい助け手を造ろう。」  
2:19 神である【主】は、その土地の土で、あらゆる野の獣とあらゆる空の鳥を形造って、人のところに連れて来られた。人がそれを何と呼ぶかをご覧になるためであった。人がそれを呼ぶと、何であれ、それがその生き物の名となった。  
2:20 人はすべての家畜、空の鳥、すべての野の獣に名をつけた。しかし、アダムには、ふさわしい助け手が見つからなかった。  
2:21 神である【主】は、深い眠りを人に下された。それで、人は眠った。主は彼のあばら骨の一つを取り、そのところを肉でふさがれた。  
2:22 神である【主】は、人から取ったあばら骨を一人の女に造り上げ、人のところに連れて来られた。  
2:23 人は言った。「これこそ、ついに私の骨からの骨、私の肉からの肉。これを女と名づけよう。男から取られたのだから。」  
2:24 それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。  
2:25 そのとき、人とその妻はふたりとも裸であったが、恥ずかしいとは思わなかった。

名をつけるとは、区別し認識することを意味します。人は自然界をそのように理解し、また活用するための知識を身につけたということでしょう。そのような能力も神様から与えられたものですから、そのような研究、産業、また趣味に携わるなら感謝すべきです。

しかし、人間には同じ人間の仲間が必要であり、

その基本は家族であり、その前提男女の結婚ということです。

ここには人類最初の結婚があり、またそれは罪で墮落する前の本来の姿です。

深い眠りは全くの無防備であり休息ですが、そのようなときに夫婦が形成されるのです。またあばら骨とは心の近くですから、妻は夫の心に寄り添うものです。夫は妻が自分の一部であることを知り、大切にしなければなりません。また結婚は両親から、経済的にも精神的にも自立できて、はじめて成り立つものです。また互いに受け入れあうなら、裸になって弱さや欠点を見せることも恥ずかしいとは思わないのです。

既婚者はそのような夫婦をめざしましょう。これからの人はそのような価値観を共有できる人を祈り、求めましょう。また周囲の人々はそのような夫婦や家庭の祝福が満ちるように、祈り配慮しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 6日 土曜

### 創世記



3:1 さて蛇は、神である【主】が造られた野の生き物のうちで、ほかのどれよりも賢かった。蛇は女に言った。「園の木のどれからも食べてはならないと、神は本当に言われたのですか。」

3:2 女は蛇に言った。「私たちは園の木の実を食べてもよいのです。」

3:3 しかし、園の中央にある木の实については、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけなからだ』と神は仰せられました。」

3:4 すると、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。」

3:5 それを食べるそのとき、目が開かれて、あなたがたが神ようになって善悪を知る者となることを、神は知っているのです。」

3:6 そこで、女が見ると、その木は食べるのに良さそうで、目に慕わしく、またその木は賢くしてくれそうで好ましかった。それで、女はその実を取って食べ、ともにいた夫にも与えたので、夫も食べた。

3:7 こうして、ふたりの目は開かれ、自分たちが裸であることを知った。そこで彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちのために腰の覆いを作った。

3:8 そよ風の吹くころ、彼らは、神である【主】が園を歩き回られる音を聞いた。それで人とその妻は、神である【主】の御顔を避けて、園の木の間に身を隠した。

3:9 神である【主】は、人に呼びかけ、彼に言われた。「あなたはどこにいるのか。」

3:10 彼は言った。「私は、あなたの足音を園

の中で聞いたので、自分が裸であることを恐れて、身を隠しています。」

3:11 主は言われた。「あなたが裸であることを、だれがあなたに告げたのか。あなたは、食べてはならない、とわたしが命じた木から食べたのか。」

3:12 人は言った。「私のそばにいるようにとあなたが与えてくださったこの女が、あの木から取って私にくれたので、私は食べたのです。」

3:13 神である【主】は女に言われた。「あなたは何ということをしたのか。」女は言った。「蛇が私を惑わしたのです。それで私は食べました。」

蛇とはサタンの象徴です。サタンは狡猾に人間の心に入り込もうとします。

まずみことばを少し曲げます。「どんな木からも食べてはならない」とは、神は言っていません。まるで神がきびしい方であるかのようで、サタンが同情しているかのようです。

ここで女も理解が少しだけずれてしまい、「死ぬといけない」と言っていますが、実際は「必ず死ぬ」なのです。そこでサタンは、死なないかもしれないという可能性を引き出しておいて、それを拡大してしまい、「決して死にません」と言い、女はそれを信じるに至りました。

サタンや誘惑者は、神のみことばを用いてきます。しかし、それを少しだけ変えて都合のよいようにするのです。また理解者、同情者として関わってくるのです。気をつけなければいけません。

彼らは善悪を勝手に自分で決めるという罪を犯し、神を避けるようになってしまいました。これは人間の姿です。また自分の失敗を他の人のせいにしてたり、神のせいにしてたりしています。これもまた人間の姿です。

今の自分の姿を省みてみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3:14 神である【主】は蛇に言われた。「おまえは、このようなことをしたので、どんな家畜よりも、どんな野の生き物よりものろわれる。おまえは腹這いで動き回り、一生、ちりを食べるようになる。」

3:15 わたしは敵意を、おまえと女の間に、おまえの子孫と女の子孫の間に置く。彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ。」

3:16 女にはこう言われた。「わたしは、あなたの苦しみとうめきを大いに増す。あなたは苦しんで子を産む。また、あなたは夫を恋い慕うが、彼はあなたを支配することになる。」

3:17 また、人に言われた。「あなたが妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、大地は、あなたのゆえにのろわれる。あなたは一生の間、苦しんでそこから食を得ることになる。」

3:18 大地は、あなたに対して茨とあざみを生えさせ、あなたは野の草を食べる。

3:19 あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついにはその大地に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたは土のちりだから、土のちりに帰るのだ。」

3:20 人は妻の名をエバと呼んだ。彼女が、生きるものすべての母だからであった。

3:21 神である【主】は、アダムとその妻のために、皮の衣を作って彼らに着せられた。

3:22 神である【主】はこう言われた。「見よ。人はわれわれのうちのひとりようになり、善悪を知るようになった。今、人がその手を

伸ばして、いのちの木からも取って食べ、永遠に生きることがないようにしよう。」

3:23 神である【主】は、人をエデンの園から追い出し、人が自分を取り出された大地を耕すようにされた。

3:24 こうして神は人を追放し、いのちの木への道を守るために、ケルビムと、輪を描いて回る炎の剣をエデンの園の東に置かれた。

蛇がのろわれたて腹ばいで歩くようになったのは、人間にサタンの誘惑を思い出させるためであったでしょう。動物としての蛇がどうであるか…ということよりも、サタンの惑わしを警戒しましょう。

サタンと子孫である人間の間に敵意を置くとは、人間がサタンの味方にならないためのものです。それはキリスト・イエスです。主イエスはサタンの頭を砕くという致命傷を負わせました。十字架でサタンに勝利したからです。サタンはイエス様の肉体に苦しみを与えましたが、それはかかとにかみつくように、致命的ではなかったのです。復活がそのことを実現しました。これは福音の約束でもあります。

しかし、罪のゆえに人間には苦しみが入りました。産みの苦痛、夫婦関係のずれ、労働の苦痛と危険、肉体の死です。

しかしまた、神は彼らを覆うために衣を与えてくださいましたが、それは動物の命が犠牲になっています。イエス様の犠牲を表します。

日常の問題が、このように罪から来ていることに気づきましょう。そして神のあわれみ、特にイエス様の愛の犠牲に頼りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

